

学びへのまなざし

通級指導教室での子ども達との学びを通して感じた子育てのエッセンスを不定期ではありますが紹介していきたいと思えます。

京都市立神川中学校 通級指導教室
担当 玉置宣子

「自立」のために必要な力とは？

通級指導教室に来ている生徒たちは、それぞれ目標を決めて学習に取り組んでいます。

“自分の思いを適切に伝えられるようになる”，“文字を丁寧に書く”，“場面や状況を理解した行動ができる”等々…。

一人ひとり、発達スタイル、ペース、特性や性格、生育環境に至るまで、本当に様々です。だからこそ、通級指導教室では、生徒たちの様子を見ながら、それぞれの目標にあわせた方法やペースで、自立活動や学習に取り組んでいます。

【通級指導教室で行う自立活動の区分】

- | | | |
|----------|-----------|--------------|
| 1, 健康の保持 | 2, 心理的な安定 | 3, 人間関係の形成 |
| 4, 環境の把握 | 5, 身体の動き | 6, コミュニケーション |



「発達の最近接領域」

中学校での学習は、好きも嫌いも、得意不得意も関係なく、全てに全力投球を求められます。学校生活における様々な活動も同じです。けれども、そんなオールマイティな人達ばかりではありません。やはり、誰もが得意もあれば、苦手もあります。そして得意と苦手が極端であれば、どうしても学校生活に困りが生じてしまうのです。

今の子ども達には、勉強よりも楽しく、刺激的な道具や世界が身近に溢れています。そんな中で、しんどい勉強に挑める子は、やはり「目標を定めている子」なのではないでしょうか。しかも、やる気につながる目標です。しかし、その目標レベルをどの辺りに定めるか、がとても難しい問題になります。

そこでポイントになるのが、「**発達の最近接領域**」という考え方です。「最近接領域」とは、「自力では到達できないが、他者の援助があれば問題解決が可能な水準」のことで、ここに目標設定のポイントがあります。

大切なことは、私たち大人が、子ども一人ひとりにとって適切な「発達の最近接領域」を見極めることです。今、獲得可能なことかどうか、つまり、ちょっと頑張ったら達成できる目標かどうか、ということです。それがたとえ、周囲とはペースの違った目標設定であったとしても、それを達成できた喜びは、間違いなく次へのエネルギーややる気につながります。これは、決して甘やかしてではなく、子どもの発達特性を見極めた支援であり、子どもの可能性を信じた関わりと言えるのではないのでしょうか。

そして、もう一つ大切なことは、子どもが目標達成が難しいと感じた時に、相談できる支援者がいるかどうか、相談するスキルがあるかどうか、ということです。何でも一人で出来ることを「自立」と捉えるのではなく、出来ないことを周囲に相談できる力がとても大切なのです。

通級指導教室では、生徒たちとの目標設定に重点を置き、共に試行錯誤をしながら、自信や達成感を得られる学習を目指しています。



通級指導教室に関するご質問やご相談は、学級担任もしくは通級指導担当の玉置までお問い合わせください。